

⑥ 第6委員会

「安全で安心してくらせるまちづくり」



それでは、第6委員会の意見を発表します。

第6委員会のテーマは、「安全で安心してくらせるまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは7月23日に防災指令センターの施設見学を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは、^{しんぞう}心臓マッサージとAEDを使う体験をしました。そして、AEDが1年間に185回使われていることを知り、AEDが多くの人のために使われていることがわかりました。AEDの使い方はとても簡単で、^{かんたん}私^{わたし}たちにも使いやすく、^{わたし}私^{わたし}たちにも人を助けられると思いました。

その後、^{わたし}私^{わたし}たちは、施設見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「安全で安心してくらせるまち」にするためには何をすればいいか考えました。

そこで、^{わたし}私^{わたし}たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

名古屋を「安全で安心してくらせるまち」にするには、一人一人が助け合いながら、火災、救急などに気をつければいいと思います。なぜなら、火災、救急、救助が年間約16万もあるからです。それと、周りの人たちが協力するともう少し減るんじゃないかと思ったからです。

○子ども議員

平成24年にかかってきた119番通報の1日を平均すると、1日に119番が446件もあるそうです。中には、いたずら電話もあるそうです。なので、皆さんも119番は本当に困ったときだけかけると、24時間勤務の防災指令センターの人が困らずに済むと思います。



○子ども議員

^{ぼく}僕は、名古屋市を「安全で安心してくらせるまち」にするには、次のようなことを考えました。

^{かさい}火災のないまちにしたいということです。そのためには、火遊びは^{ぜったい}絶対にしない、^{かさい}火災が起きたらどうしたらいいかということを知ってほしいです。そのためには、学校で消火器訓練をして、みんながすぐ火を消せるようにすることだと思います。

^{ぼうさい}防災指令センターは24時間、名古屋市を^{ぼうさい}防災カメラなどを使って見守ってくれています。^{ぼく}僕は、もっともっと安心してくらせるまちにしたいです。

○子ども議員

^{ぼく}僕は、^{ぼうさい}防災指令センターに行って、^{そうごうぼうさい}総合防災システムを見学して気づいたことがあります。1分1秒でも早く^{げんば}現場に着けるようにさまざまな工夫がしてありました。それは、052から始まる番号で通知した人は電話の場所が地図で出たり、昼と夜で交代して働くようにして、^{つうほう}いつ通報があっても早く^{たいおう}対応できるようにしていることです。

このことを知って、^{ぼく}僕は、名古屋は安心してくらせるまちだと心強く思いました。でも、1日に100件以上^{けん}出動することもあると聞いたので、救急車や^{しょうぼうしゃ}消防車をふやしたらもっと「安全で安心してくらせるまち」になると思います。

○子ども議員

私は、防災指令センターには理由があり行けませんでした。資料を見ていろいろなことがわかりました。このことを生かすためには、積極的に防災用具を準備したり、家族と避難経路の話し合い、日ごろから近所の方と親しくし、いざとなったときいつでも救助ができるよう、特にひとり暮らしの方の住まいを把握しておくと思います。また、昔災害を体験したお年寄りに話を聞くのはどうでしょう。きょう発表したことを学校などで話し合いができるといいです。

○子ども議員

自動車も自転車もとても急いで運転している人が多いので、もう少し時間と気持ちに余裕を持って譲り合うことができると、事故が少なくなるのではないかと思います。時々、道を譲ってくれる運転手さんも見えますが、そういうときはとてもうれしい気持ちになるので、みんながそういう気持ちでいられるといいなと思います。そして、もしけが人や病人が出たときは、早く正確な通報ができるように一人一人が心がけていくことが大切なので、僕も自分にできることを勉強したいです。

○子ども議員

いざという時のために、学校の授業^{じゅぎょう}や区の防災訓練^{ぼうさい}のときにもっとAEDの体験を行うとよいと思います。また、津波^{つなみ}が来るという時のために、日ごろから逃^にげる場所を決めて訓練をすることが大切だと思います。

○子ども議員

僕は、名古屋市を死亡者ゼロのまちにしたいです。愛知県は事故^{じこ}が多く、名古屋は車が多いからです。ゼロにするために、歩車分離式^{ぶんり}の信号にするといいと思います。僕の住んでいる場所には歩車分離式^{ぶんり}の信号があり、いつも車が多く通りますが、危^{あぶ}なく感じることはなく、スピードを出していたとしても、ぶつかるようなことはめったにないと思います。歩車分離式^{ぶんり}信号も、信号もないところは、警察官^{けいさつかん}に立ってもらったりするといいと思います。

○子ども議員

私は、防災指令センターで3分に1回電話がかかってくることを知りました。今も危険な人がいると思うと怖いです。特に夏は熱中症で倒れる人が多いので、小まめに水分をとるなどして、予防することが大切だと思います。

○子ども議員

僕は、名古屋市の防災指令センターを見学しました。ここでは、火事や救急の連絡に備えて、24時間交代で働いてくれています。

少しでも消防車や救急車が早く現場に到着するためには、路上に車や自転車はとめてはいけないと思います。なぜなら、速く走れないし、回り道をしなければならないこともあるからです。また、僕は、車がとまっていると前がよく見えないので嫌です。自転車が急に飛び出してくることもあるからです。だから、僕は路上に自転車をとめないようにしています。車もとめてほしくないです。

○子ども議員

僕は、日ごろからガスコンロなどに火をつけっ放しにしなければ、火事が少しでも減るので安心してくらせると思います。

食中毒などにならないように、食べる人は賞味期限が早いほうから食べ、安心できたらいいと思います。

○子ども議員

私は、施設見学をして、防災指令センターがどのようなことを行っているか、身近に人が倒れたときにどう対処したらいいのかがわかりました。

あと、AEDを体験することで、もし親や知り合いが倒れて意識がないときに、少しでも人間の命が守れることがわかりました。なので、私は、人が倒れたときに心臓マッサージをして人の命を守りたいです。

私たち第6委員会は、このようなことが名古屋を「安全で安心してくらせるまち」にするために必要だと考えました。
これで、第6委員会の発表を終わります。

■ ^{なかむら}中村都市消防委員長の答弁^{とうべん}

第6委員会の皆様、大変御苦労さまでございました。まず最初に、いかなる経緯^{けいい}があったにしても、今回のなごや子ども市会に参加していただきましたことに心から敬意^{けいい}を表したいと思います。皆さんの心に勇気があったからこそ参加できたと、このように実感いたしております。

さて、皆様のお話を聞いてますと、本当に5年生、6年生とは思えないしっかりとした発言、大変ありがたく思います。第6委員会は、名古屋市が抱えてます一番の大きなテーマ、安全で安心してくらせるまちづくり、これが名古屋市がやろうとしてる全ての施策^{しきく}の根本であると思います。この大事な根本であることをテーマにした第6委員会、活発な意見が出まして、皆様からはAED、そして心臓マッサージ等の具体的な発言が多くありました。皆さんもこの先、時として体の不調を訴えて心臓マッサージ、AED、そういった初期措置^{そち}をしなきゃいけない場面に遭遇^{そうぐう}すると思います。そのときには、本当に勇気を奮い起こして頑張っていたきたい、そのように思います。

また、今回、防災指令センターを視察していただきましたけれども、その中で、消防局の職員さんお一人お一人、119番通報を受けて、少しでも早く消防署が行けるように努力されてる姿を目の当たりにされたと思います。どうかこの先、きょうでなごや子ども市会は終わりますけれども、この体験、今後しっかり生かして頑張っていたきたいと思います。わたくしども大人の議員も、皆様からいただいた一つ一つの意見、これを今後の名古屋市会の課題としてしっかり受けとめて頑張っていきたいと思います。

これをもちまして御挨拶^{ごあいさつ}にかえさせていただきます。ありがとうございました。

